

「彩の国の道徳『未来に生きる』」

埼玉県道徳教育教材集-現代的な課題をもとに-

## 実践事例



埼玉県教育委員会

## 実践事例一覧

- 1 「あさがおのかんさつで」(小学校2年生)  
よいことと悪いことをよく考えて  
A 善悪の判断、自律、自由と責任
- 2 「よろこびはだれに」(小学校3年生)  
仲間を守るきまり  
C 規則の尊重
- 3 「最後の思い出」(中学校1年生)  
友の幸せを願う  
B 友情、信頼
- 4 「すべての人に読書の楽しさを」(中学校3年生)  
よりよい社会の実現  
C 社会参画、公共の精神
- 5 「参考資料」  
道徳科をもっと楽しく行うために

## 実践事例の活用について

彩の国の道徳「未来に生きる」は、情報モラルをはじめとして、子供たちが直面する現代的な課題や社会的な問題を取り上げ、ねらいとする道徳的価値を子供たちが自分との関わりで深め、多面的・多角的に考えられるよう作成したものである。

この教材を多くの先生方に活用してもらうために、道徳科の授業に力を入れている教師がこの教材を使って実際に授業を行い、どのように授業を展開していくのかを学習指導案として掲載しイメージしやすくまとめたものが、今回の実践事例集である。小学校の教材について2編、中学校の教材について2編の事例を提示してあるが、指導案には様々な工夫点や児童生徒と教師のやりとりを示し、実際に授業をしている様子が生き生きと実感できるものとなっている。

特に経験の浅い先生方や、道徳科の授業について悩みを持っている先生方にとっては、大いに参考になる実践事例になっていると考える。また、現在、現代的な課題を取り上げる道徳科の授業は必要不可欠でもあるので、多くの先生方にこの事例をもとに実際に授業を行っていただき、子供たちが多面的・多角的に考えられる機会としてほしい。さらに、この実践事例をもとに授業を行った先生方が、彩の国の道徳「未来に生きる」をより一層活用していただくと幸いである。子供たちの未来は、教師の指導にかかっている。これからの時代を生きる子供たちのために、是非道徳科の授業の工夫改善をお願いしたい。

道徳的価値を自分事として捉え、物事を多面的・多角的に考える授業

- 1 **主題名** よいことと悪いことをよく考えて **内容項目** A 善悪の判断、自律、自由と責任
- 2 **ねらい** 自分がよいと思って撮った写真を消すと決めた「まり」の気持ちを考えることを通して、自分勝手に決めた善悪の判断基準による行為が相手を困らせたり傷つけたりする可能性があることに気付き、自分の行動に対してよいことと悪いことを区別し、よりよい選択をしようとする判断力を育てる。

**教材名** あさがおのかんさつで(出典:「彩の国の道徳『未来に生きる』埼玉県教育委員会」)

3 **主題設定の理由**

(1)ねらいや指導内容について

内容項目「A 善悪の判断、自律、自由と責任」第1学年及び第2学年には、「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」とある。善悪を判断する基準には大きく2つあると捉える。1つ目は法による判断であり、2つ目は自他の気持ちを大切にしたい判断である。よいことや正しいことについて、人に左右されることなく、自ら正しいと信じるころに従って誠実かつ謙虚に行動することは、人として重要なことである。特に、価値観の多様な社会を主体的に生きる上での基礎を培うために、よいことと悪いことの区別が的確にできるように指導しておくことは重要である。

低学年の発達の段階においては、何事にも興味・関心を示し意欲的に行動することが多い反面、引っ込み思案になったり物おじしたりすることも少なくない。指導に当たっては、積極的に行うべきよいことと、人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を育てることが大切である。

(2)これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は1学期の道徳科において、自らよいと思うことを行動に移せると気持ちのよさを感じられることについて考えた。生活科では、1人1台端末を用いて野菜の観察の学習を経験してきた。また、普段の生活では、みんなが使った用具を片付けたりごみを捨てたりするなど自分がよいと思うことを進んで行う児童が多い。しかし、低学年の発達の段階では、他律的で自己中心的な考えで行動しがちな傾向があるため、友達に問題の答えを教えたり相手の方まで仕事をしてしまったり、思わぬトラブルを招くこともある。

そこで、本教材では、児童がねらいとする道徳的価値について問題意識をもって、善悪の判断について異なる立場から考えたり、自分との関わりの中で考えたりする活動を通して、自分勝手な思い込みによる行動が相手を傷つける場合もあるということに気付き、自分の行動に対してよいことと悪いことを区別し、よりよい選択をしようとする判断力を育てたい。

(3)教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公「まり」が熱心にあさがおを観察する「みき」と「たけし」をタブレットで勝手に撮影した結果、「たけし」に不快な思いをさせてしまう話である。自分勝手な思い込みで二人を撮影してしまった「まり」の行動から、自分の行動の是非や善悪を判断する基準とは何かを考えるのに適した教材である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合う。

- ① そっと二人を撮影する場面  
頑張る姿を撮りたいという思いで行動してしまう「まり」の気持ちを考えられるようにする。
- ② 「まり」が「たけし」に怒られて動揺する場面  
「たけし」の言動を理解できず動揺してしまう「まり」の気持ちを考えられるようにする。
- ③ 「たけし」が怒る場面  
勝手に写真を撮られた「たけし」の気持ちを考えられるようにする。
- ④ 「まり」が自分の行動を振り返る場面  
自分だけがよいと判断した行動で相手を傷つけてしまったと反省する「まり」の気持ちを考え、役割演技を通して善悪の判断基準には相手の気持ちも考慮するよさに気付けるようにする。  
以上の理由から、本主題を設定した。

#### 4 学習指導過程

段階	学習活動と主な質問	予想される児童の発言	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 アンケート結果について知る。</p> <p>アンケート内容</p> <p>①「〇〇はよい？ わるい？」</p> <p>②「よいこと・わるいことをどのように決めていきますか。」</p>	<p>・青信号で渡る →よい</p> <p>・ごみを拾う →よい</p> <p>・廊下を走る →わるい</p> <p>・わりこみをする→わるい</p> <p>・答えを教える →どっち？</p>	<p>・指導上の留意点 ☆評価の視点</p> <p>・自分との関わりで善悪の判断基準について問題意識をもてるように、質問内容は児童に身近で善悪の判断がしやすいものから、徐々に曖昧で判断しづらいものに変える。</p>
<div style="border: 2px solid green; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p><b>道徳的価値を自分事として捉えるためのアンケートを活用した導入</b></p> <p>T：「よいこと・わるいこと」をどのように決めていきますか。</p> <p>C：学校のきまり。交通ルール。</p> <p>C：命にかかわること。</p> <p>T：「命にかかわる」とは、どういうこと？</p> <p>C：それが、安全かどうかで決めること。</p> <p>T：<u>なるほど。でも、もしも、きまりやルールがない時はどうすればいいのかな？</u></p> <p>C：うーん。よくわからない。</p> <p>C：考えたこともないなあ。</p> <p>C：みんなと考えてみたいなあ。</p> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>善悪を判断している基準について自覚できるように、児童のつぶやきをつないで、ねらいとする道徳的価値についての問題意識をもてるようにした。</p> </div> </div>			
展開	2 教材の人物や条件・状況を知る。		・全員が円滑に話合いに参加できるように、教材の人物や条件・状況について一つ一つ丁寧に確認する。





- ・登場人物……まり、みき、たけし、先生
- ・条件、状況… タブレットで撮ったあさがおの写真を先生にほめられた「まり」は、熱心に観察をする「みき」と「たけし」を見つけて黙って撮影する。

3 教材「あさがおのかんさつで」の読み聞かせを聞き、話し合う。

(1)二人を撮ろうと思ったまりは、どんなことを考えたのだろう。

- ・頑張る二人のことを先生やみんなに知らせたい。
- ・二人を喜ばせたい。
- ・邪魔をしなければ平気。

(2)何も言えなくなったまりは、どんなことを考えたのだろう。

- ・何で怒るの？
- ・喜んでくれないの？
- ・すごくいい写真なのに…。
- ・撮って損した。

(3)たけしは、なぜ怒ったのだろう。

- ・撮る前に聞いてほしかった。
- ・はずかしいから嫌だ。
- ・人に見られたくない。

・児童の印象に残るように、速さ、声色、間などを考えて読む。

・頑張る二人を撮りたいという思いで行動してしまうまりの気持ちに共感することで、悪気がなく衝動的だった行動について考えられるようにする。

・予想外のたけしの言動に動揺するまりに共感することで、善悪の判断に悩み、自分の行動を考えられるようにする。

・まりの行動に対する感じ方の違いから、不快に思ったたけしの気持ちにも共感し、人によって異なる価値観について考えられるようにする。

### 物事を多面的・多角的に考えるための問い返し

T : まりが撮った写真をみきは喜んでくれたのに、たけしは怒った。どうして？

C : 写真を撮られることを、みきはよくても、たけしは嫌だったから。

T : でも、まりは邪魔をしないようにそっと撮ったんだよね。

二人の頑張りがわかるいい写真なのに…。

C : どんなにいい写真でも、勝手に撮られたことが許せなかったんじゃないかな。

C : 撮る前に聞いてほしかったんだと思う。

T : そうかあ。まりとたけしの考えを比べるとどう？

C : たけしの考えは、「写真を撮ってもよい」と思うまりの考えとは反対だ。



道徳的価値を自分事として捉え、多様な考えを引き出すために「みんなはどう思う？」「～さんと同じかな？それとも違うかな？」などの発問を繰り返すことで、児童の考えを受け止め、繋げ、全体に広げた。

板書は、発表ごとに書かずに、児童の思考が途切れないように発表内容を記録し、内容をまとめて端的に記した。

<p>(4)自分の行動を振り返って、まりは何に気付いたのだろう。</p> <p><b>(中心的な発問)</b></p> <p>まりは、たけしに何と言ったのだろう。</p> <p><b>(役割演技)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たけしの気持ちを考えていなかった。</li> <li>・自分だけで「よい」と勝手に決めていた。</li> <li>・<b>ごめんね。私、</b>写真を撮るのは、よいことだと思っていたんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割演技を通して、相手を傷つけてしまったと反省するまりの気持ちに共感し、道徳的価値をより深く理解できるようにする。</li> <li>☆まりに自分を重ねながら、自分だけでなく相手のことも考えた善悪の判断について多面的・多角的に考えている。(発言・役割演技)</li> </ul>
--	---	---

**道徳的価値の理解を深めるための役割演技**

※          は教材文の一部

T: まりは、たけしに何と言ったのかな。

         の後に続けて演技してみましょう。

(C: まり T: たけし)

C: **ごめんね。私、** たけし君に喜んでほしくて写真を撮っちゃったんだ。

T: **うん。でも、これからは、** 撮る前に一度聞いてね。ぼくの気持ちも考えてね。

C: うん。わかった。今度は、たけし君の気持ちを大事にするから安心してね。

(演技後、まり役の児童に対して)

**T: どんな気持ちで謝ったの?**

C: たけし君に「もう嫌な思いをさせない」という気持ちを込めて謝った。

(役割演技を見ていた児童に対して)

**T: 見ていたみんなは、どう思った?**

C: 「たけし君の気持ちを大事にする。」がよかった。たけしも安心したと思う。

C: たけし君の嫌な気持ちがわかったから、まりは自分が悪いと謝れたんだと思う。



まりの気持ちに共感し、たけしの気持ちを慮る考えを引き出す即興性のある役割演技となるように、児童は「まり」役、教師は「たけし」役を演じた。

**「規律ある態度」の育成**

**【話を聞き、発表する】**

役割演技で「話を最後まで聞くことができる」ことを意識するように声をかける。

4 自己を見つめ、振り返る。

- ・今までの自分は、「よい」「わるい」をどう決めましたか。
- ・今日の学習で気付いたことは何ですか。

- ・今までは、きまりでよいことや悪いことを決めていたけれど、相手の気持ちを考えることも大切だと気付きました。

- ・善悪を判断して行動することについて自分との関わりで考えられるようにするため、導入のアンケートを提示する。
- ☆善悪の判断について自分の体験と関連付けて考えたり、よいと思うことを進んで行うことについて書いたりしている。(ワークシート)

自己を見つめる活動

自己を見つめる活動では、発達の段階を考慮して3つの視点でワークシートに記入した。

- ①これまでの自分
- ②今日の学習で気付いたことや学んだこと
- ③これからへの思い



③  
 ②  
 ①

\*きょうざい名 あぎがおのかんざつで  
 \*テーマよいこととわるいことどつきめる？

今までは、きまりでよいわ  
 いをきめていました。でも  
 自分だけでよいわ  
 きめるのはダメだと知  
 りました。これからは、  
 友だちの気もちもかく  
 いんしてきめたいです。

③  
 ②  
 ①

\*きょうざい名 あぎがおのかんざつで  
 \*テーマよいこととわるいことどつきめる？

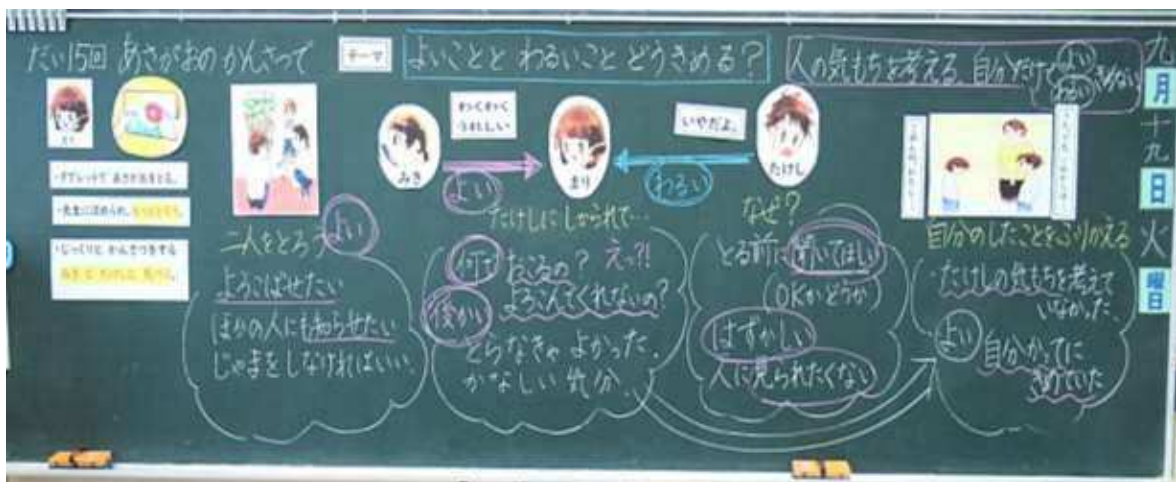
わたしもまわりさんと  
 同じしゅはいをししたこと  
 あります。でも自分がよいと思  
 ってもあい手はちがうと  
 わかりました。あい手の  
 気もちも聞いてよいわ  
 いをきめたいです。

道徳的価値の理解を深めるために、これまでの自分を振り返りながら書いている児童を意図的に指名する。



終末	5 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする道徳的価値への意識を高められるように、自分の経験から印象に残っていることを伝える。</li> </ul>
	<p>小学生の時、私は友達とよくテレビゲームをしていました。ある日、なかなかクリアできずにいた友達を見た私は、つい攻略法を教えてしまいました。すると、友達は「何で言うんだよ。」と怒って帰ってしまいました。</p> <p>次の日、私は勇気を出して友達に話を聞いてみると、「勝手に教えてほしくなかった。自分でクリアしたかった。」という理由を知りました。</p> <p>それで、私は自分の「よい」と相手の「よい」が違うこともあるんだな。だから、自分だけで「よい・悪い」を決めちゃいけないんだなと気付くことができました。</p>	

## 5 板書



## 6 他の教育活動との関連

- ・生活科や図画工作科で作品を撮影する際、よいことと悪いことを区別して1人1台端末を使用できるようにする。
- ・日常生活における物事の善悪について、相手の気持ちも考慮した上での確に判断し、行動できるようにする。

## 7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・主人公に自分を重ねながら考え、よいことと悪いことの区別について話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・善悪を判断することについて、これまでの体験と関連付けて考えたり、自分がよいと思うことを進んで行うときには他者の思いも考慮したりすることを、自分との関わりで考えている。



よるこびはだれに～思考の流れ・変容が見える化～

- 1 **主題名** 仲間を守るきまり **内容項目** C 規則の尊重  
 2 **ねらい** 約束やルールの意味やよさについて理解し、よりよく守ろうとする判断力を育てる。  
**教材名** よるこびはだれに（出典「彩の国の道徳『未来に生きる』埼玉県教育委員会」）  
 3 **主題設定の理由**

(1) ねらいや指導内容について

中学年における内容項目「規則の尊重」では、「約束や社会のきまりの意味を理解し、それらを守ること。」とある。これは低学年の「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。」を発展させたものであり、高学年の「法やきまりの意味を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。」へ発展していくものである。社会の法やきまりのもつ意義について考えることを通して、法やきまりが、個人や集団が安全にかつ安心して生活できるようにするためにあることを理解し、それを進んで守り、自他の権利を尊重するとともに義務を果たすという精神をしっかりと身に付けるように指導する必要がある。

中学年の段階においては、気の合う仲間や集団の中にきまりをつくり、自分たちの仲間や集団及び自分たちで決めたことを大切にしようとする傾向がある。また、一人一人が身近な生活の中で、約束や社会のきまりと公共物や公共の場所との関わりで考えることは少ない。

指導に当たっては、このような時期だからこそ、集団生活をする上で、一人一人が相手や周りの人の立場に立ち、よりよい人間関係を築くことや、集団の向上のために守らなければならない約束やきまりについて十分考えることが必要である。また、自分の思いのままに行動するのではなく、約束やきまりを守って行動する判断力を育てることが大切である。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、道徳科において新聞づくりのルールについて話し合うことを通して、きまりを守ることの大切さについて考えを深めた。また、学級活動においてクラスレクを週2回企画し、実践する中で、少しずつではあるがきまりの意味やよさについて感じられるようになった。

そこで、本教材では、身近なインターネットとの関わりから、きまりの大切さを感じさせるとともに、一般的な約束や社会のきまりの意味やよさについて理解し、それらを守れるような判断力を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、なわとび大会に向けてクラスで練習し、新記録を更新した動画をインターネットに載せるか悩み、思いとどまるが、次の日に、友だちの写真を無断でインターネットにのせて問題になった話を先生から聞き、自分の考えていたことについて振り返る話である。

本学級の実態を受け、主に次の場面を話し合うことにする。

①新記録を達成したわたしが涙を流して喜んでいる場面

ここでは、努力の末の新記録に歓喜し、その喜びや感謝の気持ちをインターネットでも共有したい気持ちを共感的に考えられるようにする。

②わたしがタブレットの動画を何度も見返している場面

ここでは、インターネットに載せたい気持ちと、載せてはいけない気持ちの葛藤を感じ取らせ、話し合い、考えられるようにする。

③次の日、先生の話聞きながら考えている場面


ここでは、ルールを守ることが、みんなが気持ちよく生活していくために必要だと気付いていくわたしの考えに触れ、規則の意義やよさについて考えられるようにする。

#### 4 学習指導過程

階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言	・指導上の留意点☆評価の視点
導 入	1 アンケート結果を見て、身近な約束やルールについて考える。 ・私たちの学校や家庭、地域にはどんなルールがあるのでしょうか。	・廊下は右側を歩く。 ・信号機の赤は止まる。 ・名前は「さん」付けして呼ぶ。 ・ルールを守れないこともあるよな。	・指導上の留意点☆評価の視点 ・身の回りの約束やルールに係るアンケート結果を電子黒板に映し、教材と生活を結びつけられるようにすることで、児童の問題意識を高める。

Q. 身の回りにあるきまりやルールには、どのようなものがありますか？

座席・導入の工夫




アンケート結果をプレゼンテーションソフトでまとめ、視覚的にわかりやすくかつ、スムーズに導入できるようにした。

児童が安心して発言ができるように、お互いに顔が見えるよう、机の並びをUの字とする工夫をした。


展	2 教材の登場人物や条件 ・状況について知る。		・状況を簡潔に説明することで、教材の内容を理解しやすくする。
	<p>〈登場人物〉 わたし かいとさん 友だち お兄ちゃん お母さん 先生 ・なわとび大会に参加 ・動画を参考に練習</p>		

場面提示の工夫


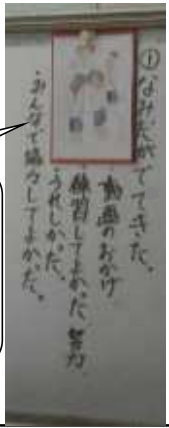


テレビ場面に要点を加え、提示することで、視覚的に条件・状況を捉えやすくした。

黒板に掲示するものは、後で振り返るために、キーワードを付け加えた。





開	<p>3 教材「よろこびはだれに」の読み聞かせを聞き、話し合う。</p>		
	<p><b>読み聞かせの工夫</b></p> <p>児童の間を歩きながら読み聞かせをすることで、児童の反応や教材の内容を理解しているかどうかを確認した。</p>		
<p>(1) 涙を流しながらわたしはどんなことを考えたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしい</li> <li>・動画のおかげで新記録が出た。</li> <li>・この動画をほかの人にも見せたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・努力の末の新記録に歓喜したわたしに共感することで、喜びや感謝をインターネットでも共有したくなる気持ちを考えられるようにする。</li> </ul>	
	<p><b>人間理解を深める話合い</b></p> <p>T：涙を流しながらわたしはどんなことを考えたのでしょうか。</p> <p>C：新記録ができてうれしい。</p> <p>T：<u>そうですよね。すごくうれしかったのですね。どうして新記録がだせたのですか。</u></p> <p>C：みんなで練習してきたから。努力の成果。</p> <p>C：新記録が出たのは動画のおかげもある。</p> <p>C：自分たちの動画も見てもらいたい。</p>	<p>児童の発言を受容し、嬉しさを共有したい気持ちを深めた。</p>	
<p>(2) タブレットの画面を見ながら「わたし」はどんなことを考えているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画をインターネットにのせるかのせないか。</li> <li>&lt;載せたい&gt;</li> <li>・記録をのぼせたのは動画のおかげだから、この動画もほかの人の役に立つかも。</li> <li>・私たちの努力の成果をほかの人にも知ってほしい。</li> <li>&lt;載せないほうがいい&gt;</li> <li>・知らない人に見られるのは恥ずかしい。怖い。</li> <li>・一度インターネットにのせてしまうと消せない。</li> <li>・家の人や先生が「だめ」と言っていたから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画サイトを開き、タブレットに書き込みながらも、ためらう「わたし」の葛藤を考えられるようにする。</li> <li>・インターネットに載せたい気持ちと載せてはいけないという相反する感情を表現できるように、心情の見える化や板書の工夫をする。</li> <li>・インターネットが悪いものにならないように、インターネットの利便性を確認する。</li> <li>・&lt;載せたい&gt;気持ち・&lt;載せないほうがいい&gt;気持ちのそれぞれに対して、問い返しをするこ</li> </ul>	

・勝手に載せてはいけない。

### 個人の考えを可視化するツールを複数活用し、心情の変化が見える話し合い



心情の変化が視覚的にわかるように、一人に二つのハートメーターを渡し、話し合いを通して心情の変化が見える工夫をした。(変化しなくてもよいことを共通理解している。)

とで、考えを深められるようにする。

☆新記録の喜びをインターネットに載せたい気持ちと、載せないほうがいい気持ちを友だちの考えをしっかりと聞き、物事を多面的・多角的に考えている。(発言・うなずき・表情・ハートメーター)

「規律ある態度」の育成

#### 【話を聞き、発表する】

小集団の話し合いのとき、相手に体を向け友達の考えを比較しながら聞けるようにする。

### 個人の考えを可視化するツールを活用し、小集団→全体へと広げる話し合い

- T: タブレットの画面を見ながら「わたし」はどんなことを考えているのでしょうか。
- C: この動画をインターネットにのせて、いろいろな人に見てもらいたいな。
- C: 「恥ずかしいからいやだ。」と言っていた友達もいたな。
- T: 自分たちの動画をインターネットにのせたい気持ちと、のせない方がいい気持ちと、どうやら迷いがありそうですね。「載せたい」をピンク、「載せないほうがいい」を水色として、どちらの気持ちが強いのか、ハートメーターに表してみましよう。



考えを可視化することで、自分の考えが整理され、表現しやすくなった。

#### 【小集団（3人組）での話し合い】

- T: それでは、グループでわたしの思いについて話し合ってみま
- C: 私たちの努力の成果をほかの人にも知ってほしい。
- C: 世界中の人に見てもらって有名になりたい。
- C: のせるのが嫌と言っていた友達もいたよ。
- C: 怒られるだけではなく、事件に巻き込まれてしまうかも
- C: …権利があるって話を聞いたことがあるけど。
- T: 友達の考えを聞いて、考えが少しでも変わった人はハートメーターに表しましよう。  
変わっても変わらなくてもその理由を大切にしてください。



ハートメーターを活用しながらグループで意見交換を行い、考えを深めた。また、友達の考えを聞いて、考えに変化があった場合は二つ目のハートメーターに表す工夫を行い、考えの変化を可視化し、その理由についてさらに話し合った。

【全体での話し合い】

T：「載せたい」気持ちが少しだけ多いようだけど、どんな考えかな。

C：勝手に動画をのせてはいけないというきまりはあるけれど、今回の自分たちの記録を他の人に見てもらって認めてもらいたい気持ち。

T：「載せたい」気持ちが多い人の考えを聞いて、他の人はどう考えましたか。

C：「すごいね。」って認めてもらいたい気持ちと自分たちが他の人の動画を参考にしたように、この動画も誰かの役に立ててほしい。

T：（ハートメーターの変化から）「載せたい」気持ちが初めは多かったけど、「載せないほうがいい」気持ちが多くなったのはどうして。

C：〇〇さんの「友達ののせたくない気持ちも大切にしたい」という意見を聞いて、「のせない方がいい」気持ちが強くなりました。



(3) 先生の話聞いてドキドキしている「わたし」はどんなことを考えたでしょうか。

- ・やっぱりいけないことだった。
- ・やらなくてよかった。
- ・クラスみんなに迷惑をかけるところだった。
- ・自分の思いのままではなく、相手の思いも考えなくては。

価値理解を深める話し合い

T：先生の話聞いてドキドキしている「わたし」はどんなことを考えたでしょうか。

C：動画を載せなくて良かった。

C：わたしは、自分のことばかり考えていた。

自分本位であったことに気付かせるために「問い返し」をした。

T：自分のことばかりってどういうこと。

C：自分の「動画を他の人にも見てほしい」という気持ちを優先させていて、「他の人には見られたくない」と言っていた友達の気持ちを考えていなかった。


C：…迷惑をかけるところだった。

道徳的価値に迫るために「問い返し」をした。

T：「わたし」はどんなことに気付いたかな。

C：インターネットに無断で動画を載せてはいけないのは、自分や周りの人を守るためのきまりだった。

C：迷惑をかけないためにきまりがあるのかもしれない。自分や他の人を守るためにしっかりと守らなければいけないと思う。

<p>4 自己を見つめ、生き方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約束やルールはなぜ必要なのか、これまでの生活を振り返り、今日の授業で考えたことを書きましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までは、怒られるから守ろうと思っていたけれど、きまりは自分だけではなく、周りの人を守るためにあるんだ。</li> <li>・今までは、ただ楽しめればいいと思っていたけれど、インターネットを使うときはきまりや約束を守って使いたい。</li> <li>・今までは、つい廊下を走ってしまうことがあったけど、自分や相手のために右側を歩きたい。</li> <li>・今までは、自分勝手にルールを守れないことがあったけど、ルールは、自分やほかの人が気持ちよく生活するためにあることが分かったので、これからはしっかりと守っていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の経験を振り返り、今後の生き方について自分らしく表現できるようにする。</li> </ul> <p>☆インターネットの約束やきまりの意義を理解したうえで、きまりを守ることにについて、自分との関わりで考えている。</p> 
--	--	--

**「自己を見つめる」書く活動**

今日の授業のふりかえり

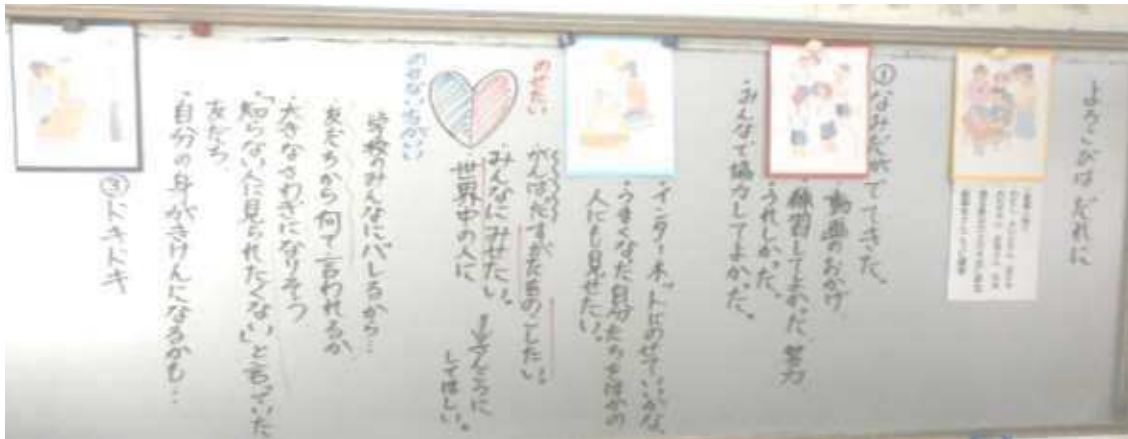
・約束やルールはなぜひつようなのか、これまでの生活を振り返り、今日の授業で考えたことを書きましょう。

いままで「これはかまへがどきなくてかくそくをまもるなからたけどこのいふまゝをとおしてやたらいけないうとやたらいかにやっちなかもしれないと思てか、てはいけないうをまもてきたいです。

----- は自己を見つめる部分  
 \_\_\_\_\_ は自己の生き方について考えを深める部分

<p>終末 5 生活の様子を画像で見ると。</p> <p>児童が廊下の右側を歩く姿など、きまりを守って生活している様子の画像を流す工夫をした。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に約束やルールを守り、生活していこうと思えるように余韻を残す。</li> <li>・スライドショーに合わせて、よりよい判断ができている様子を称賛する。</li> </ul>
---	--	--

## 5 板書



## 6 他の教育活動との関連

- ・学級活動で学校等の約束について考え、よりよく過ごすことができるようにする。
- ・社会科では、きまりや公共施設について理解を深めることができるようにする。
- ・全教育活動を通じてタブレットやスマートフォン、オンラインゲームなどの怖さを学び、正しい知識を身に付けられるようにする。

## 7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・主人公に自分を投影しながら、新記録の喜びをインターネットに載せたい気持ちと載せないほうがいい気持ちを多面的・多角的に考え、自分の考えを伝え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自分や他人の中にある心の弱さや葛藤があることに気づき、自分だけではなく周りの人のことを考えて、ルールを守る大切さについて考えている。

話し合いの中で考えを深めさせる問い返しの工夫がある道徳授業

- 1 **主題名** 友の幸せを願う                      **内容項目** B 友情、信頼
- 2 **ねらい** 主人公の親友を思った行動や親友とのすれ違いについて考える学習を通して、友達とのよりよい信頼関係を築くためには相手の思いを尊重する大切さに気づき、より深い友情を構築しようとする態度を育てる。

**教材名** 最後の思い出（出典：「彩の国の道徳『未来に生きる』埼玉県教育委員会」）

3 **主題設定の理由**

(1)ねらいや指導内容について

真の友情は、相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、相手に対する敬愛の念がその根底にある。それは、相手の人間的な成長と幸せを願い、互いに励まし合い、高め合う平等で対等な関係である。心からの友情や友情の尊さについて理解を深め、自分を取り囲む友達との友情をより一層大切にすることを育てることが大切である。

中学生の時期は、様々な価値観に触れる中で心から信頼できる友達を得たいという気持ちが高まってくる。これまでの経験で信頼関係が大切であるということは理解しているが、実際に行動に移すことの難しさに直面する時期でもある。信頼関係を築くためには相手の思いを尊重しようとすることや心からの友情や友情の尊さについて考えを深めることで態度を育みたい。

(2)これまでの学習状況及び生徒の実態について

本学級の生徒は、入学後、学校生活や部活動等にも慣れ、日頃から協力しあって生活をしている。しかし、自分本位な考えで行動してしまったり、深く考えずに行動してしまったりするところがあり意図せずに周囲の友達を傷つけてしまうこともある。また、友達と信頼関係を築く上で「友達の立場で考えることの大切さ」は理解していても、特に親しい関係においては、つい自己中心的な行動をとってしまいがちである。

体育祭の練習では、協力して取り組んでいた一方、その方法等で言い合いになることもあった。そのような場面では、友達の悪い面にばかりに目が行きがちだが、それぞれが自分の考えをもって行動していることについて話し合いを重ね、励まし合い、高め合ってきた。それらのことにより、友達を尊重したり、友達の思いに心を寄せたりすることができる生徒が増えてきたが、自分の考えに固執してしまい、周囲の考えに気付かない生徒も少なくない。

そこで、友達とのよりよい信頼関係を築くためには、友達の立場に立って物事を考えることが大切であると気づき、相手や周囲の思いに配慮した行動をとろうとする態度を育てたい。

(3)教材の特質や活用方法について


主人公の真奈は中学1年生で、ある日親友の潤子から2週間後に引っ越すことを打ち明けられる。それを受けて友人の智美、結花とともに、サプライズで潤子との最後の思い出を作るために3人だけのSNSグループを作成し準備を始めるが、準備が進むにつれ潤子との距離が離れていってしまう。そんな中、潤子の引っ越しの日になり早まったことを潤子から告げられ、真奈はこれまでの行動を後悔する。




主人公の真奈に自我関与することを通して、潤子との思い出作りやそれが原因でこじれていってしまう4人の関係性を、様々な立場から多面的・多角的に考えることを通して、信頼関係を築く上で本当に大切なことは何か、信頼できる友達について考えさせる。

以上のことから、本主題を設定した。

#### 4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 アンケート結果について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">アンケート内容</div> 「友達がいてよかったなあ」と思うのはどんな時、どんな場面ですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達にこんなに助けられているのか。</li> <li>・自分と同じ理由の人もいる。</li> <li>・些細な場面でもいてくれてよかったと思っている人が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果を活用することで、ねらいとする道徳的価値について問題意識をもてるようにする。</li> <li>・日常の生活を想起させ、友達がいることのよさを改めて実感できるようにする。</li> </ul>
<div style="border: 2px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">アンケートを用いた問題意識をもつための工夫</div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">友達がいてよかったなあ…</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; border-radius: 15px; flex-grow: 1;"> <p>本時の内容に関わるアンケートの結果を、テキストマイニングを用いて視覚的に把握できるようにした。</p> <p>※テキストマイニング…文章を単語等で区切り、出現傾向、時系列（今回は頻度）などで解析する分析方法。</p> </div> </div>			
<div style="border: 2px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">自分事として捉えるための導入での問い返し</div> <p>S：(略)「〇〇してくれる」ってことを答えている人が多い。</p> <p>T：なるほど。では、「何かをしてくれる」から友達なのでしょうか。</p> <p>S：そういうわけじゃないけど、やっぱり、自分にとってプラスになる人が友達なのだと思います。</p> <p>T：自分にとってプラスにならない人は友達とは言えないのでしょうか。</p> <p>S：…でも、プラスになる人ばかりとも言えないかもしれない…。</p> <p>T：自分の周りの友達について思い浮かべましたか。あなたの友達や親友は自分に何かをしてくれるから友達なのでしょうか？</p>			
展開	2 教師の範読を聞き、真奈の心を中心に友人たちの心も含めて話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物について相関図をプロジェクターで表示しながら確認し、教材の内容にスムーズに入れるようにする。</li> <li>・真奈と潤子は親友同士だが、真奈</li> </ul>

		<p>と他の2人は友人であるという関係性について押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材データを生徒の1人1台端末に送付する。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid green; display: inline-block; margin-bottom: 5px;"><b>教材提示の工夫 (ICT の活用)</b></p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="width: 70%;"> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">範読前に相関図を確認し、登場人物の関係性をイメージできるようにした。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">教材をPDFで配布し、読みやすいよう、各自で大きさ等を調整できるようにした。</p> </div> </div> </div>		
<p>(1) 潤子が転校することを真奈だけに直接伝えたのはなぜだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大切なことは直接伝えると約束しているから。</li> <li>親友の真奈にはどうしても直接伝えたかったから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNSを使って友情を育むことができるが、潤子が友情を深めるためには直接伝えることのよさを大切にしていることを押さえる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid green; display: inline-block; margin-bottom: 5px;"><b>考えを広げたり深めたりする発問</b></p> <p>T : 潤子は真奈だけには直接転校のことを伝えていますがね。なぜ、智美と結花にはSNSで伝えて、真奈には直接伝えたのだと思いますか。</p> <p>S : 潤子が親友だから。</p> <p>T : <u>親友だと直接伝えるのですか。</u></p> <p>S : 直接の方が自分の気持ちが伝わりやすいから。</p> <p>T : <u>どうして、そう思うのですか。</u></p> <p>S : 直接会うと、顔が見えて相手が何を考えているか分かりやすいからです。</p> <p>T : <u>でも直接だと、辛さありませんか。</u></p> <p>S : 辛くても、親友だったらちゃんと、直接伝えるのが優しさだと思います。</p> <p>T : そうですか。潤子は直接伝えることで、伝わる気持ちがあると思ったのですね。</p> </div>		
<p>(2) 潤子から「さみしい」とメッセージが届いたとき、真奈はどんなことを考えただろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>潤子に悲しい思いをさせてしまった。</li> <li>智美は分かってくれてよかったが、結花が怒ってしまってどうしたらいいか分からない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いがうまく伝わらないことについて考えさせるために、迷いが出ている真奈について考えさせる。</li> <li>グループ→全体の順で話し合い、これらの話し合いを通して個人の考えを深められるようにする。</li> </ul>

・真奈は引っ越してしまいうけど、智美と結花はこれからも一緒に過ごすから、2人のことも裏切れない。



☆潤子から「さみしい。」とメッセージが届いたときの真奈の思いを、智美と結花の存在も踏まえつつ、多面的・多角的に考え、自分の考えを深めている。

「規律ある態度」の育成

【話を聞き発表する】

・グループの話合いを通して、友達の発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができるようにする。

### 多面的・多角的に考えを深める 問い返しの工夫

T：潤子から「さみしい」とメッセージが届いたとき、真奈はどんなことを考えましたか。  
 S：ごめんね。そういうつもりじゃなかったのだけれど。  
 T：「そういうつもりじゃなかった」というのはどんな思いですか。 … (略)  
 S：でも、伝えたらサプライズじゃなくなっちゃうよ。  
 S：お別れ会ができれば、サプライズじゃなくてもいいのではないかな。  
 T：サプライズの準備は真奈が一人でしている訳ではないですね。  
 S：確かに。じゃあ、智美と結花にも伝えなきゃいけないのか。  
 T：そうしたら、智美と結花には、どんな風に伝えますか。  
 S：2人は怒りそうだから、伝えない方がいいかも。  
 S：それに伝えずに驚かせるのがサプライズの良いところなのだから、やっぱり伝えない方が潤子も嬉しいと思う。

(3) 真奈が本当に話したいことは何だったのだろうか。  
 〈中心的な発問〉

数名に発言を促した後、自分の考えを整理しながら記入し、自分の考えを明確にできるように工夫した。

### 自分の考えを整理するための書く活動

・最近そっけないのは、本当はサプライズをやろうとしていたのだよ。だけど、やっぱり潤子が喜ばば何でもいいから、今日から4人で遊んで思い出を作ろう。  
 ・智美と結花のことなのだけれど、実は潤子のこと喜ばせたくて、3人でいろいろ作業していたんだ。さみしい思いをさせてごめんね。  
 ・今まで、潤子には内緒にしていたのだけれど、本当は潤子のためにサプライズを考えていたの。サプライズのために、潤子とかかわる時間を削っちゃってごめんね。

### 導入を振り返り、話し合いを深める工夫

T : 最初のアンケートでは、自分にプラスがあるのが友達だという意見もありましたね。潤子が転校したあと、一緒に過ごすのは智美と結花ですが、2人を怒らせる可能性があっても、潤子に伝えたいと思ったのはどうしてですか？

S : やっぱり、潤子は親友だから。智美と結花には悪いけど、2人とは大切さが違うし、もう少しで転校しちゃうから、今、大事なのはやっぱり潤子の方だと思う。

T : では、潤子の方が智美と結花より大切だから、潤子に伝えるのですか？

S : そうです。でも、それもあるけど、両方とも大事。そもそも、潤子のためのサプライズだから、潤子が喜んでくれなきゃ意味がないと思います。だから、今1番大事な潤子の気持ちだと思います。

—ここで、多くの生徒がうなずく—

<p>(4) 友達と信頼関係を築くために大切な心は何だろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当は潤子のことを思ってサプライズを用意していたの。</li> <li>・傷つけてごめんね。</li> <li>・潤子が本当に望んでいることが分からなくてごめんね。</li> <li>・相手だったらどう考えるかを考えられる心。</li> <li>・優しく厳しい心。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いと親友の思いのすれ違いに悩む真奈について考えさせるために、後悔している真奈について考えさせる。</li> <li>・潤子は最後まで真奈と正直に向き合おうとしていることに目を向けさせる。</li> <li>・導入のアンケートに戻り、自分に利益をもたらすから友達なのかをもう一度考えさせる。</li> <li>☆友達と信頼関係を築くことについて、日頃の自分と周囲の人間関係を想起しながら、自分との関わりで考えている。</li> </ul>
-------------------------------------	---	--

### 「自己を見つめる」ための書く活動

・友達を思う優しい気持ちが大切だと思います。自分が相手に優しくしないと、相手も優しくしないと、まずは、仲良しになって、そこから「信頼」を築いていくと思います。

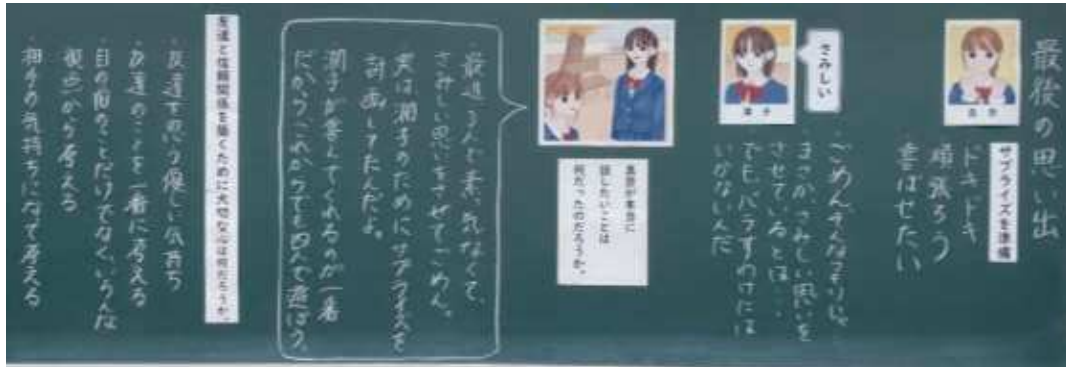
・一番大切なものをちゃんと理解する。友達のことを思うことを忘れない。

・どうすれば信頼できる関係を築けるのかを考える。私は、目の前のことだけだと、周りのものを見失ってしまうから、いろんな視点から考えるようにしている。そうしたら何でも言い合える友達関係をつくることができた。

・相手の立場になって気持ちを考える。自分は、信頼をしていい相手だと思えた瞬間を大切にしている。相手をそう思えた自分がいると思うから。それを忘れないようにしたい。

終末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のことを思っでの行動を取り上げ、生徒が心にそっと決意できるように話をする。</li> <li>・アンケート結果に触れ、友達を思う心について取り上げることで、生徒の自己肯定感を高められるようにする。</li> </ul>
	<p>持久走大会で最後を走っていた友達のAさん。先に走り終わった私はその友達を迎えに行つて最後のところを一緒に走ろうか悩んでいた。もしも迎えに行つて一緒に走ったら余計に目立ってしまう。嫌な気持ちにさせてしまうかもしれない。どうしたらよいか悩んだ。…一緒に走ってくれたAさんは日記に「嬉しかった。」「感動した。」と記入してくれたと後で先生から聞いた。私の友達を思う気持ちが伝わったのかな。</p>	

## 5 板書



## 6 他の教育活動との関連

事前指導	学活で「友達がいってよかったと思う場面」についてアンケートを取り、生徒の実態を把握する。
事後指導	道徳通信で他クラスの生徒の考えも紹介し、考えを広げられるようにする。
学校行事	体育祭、合唱祭、校外学習等を通して、友達の気持ちを考えて行動できるようにする。
各教科等	授業の態度や発表の聞き方、伝え方なども友達関係に影響することを実感できるようにする。
家庭との連携	道徳通信で教材の概要と生徒の感想を紹介し、家庭でも話題にできるようにする。

## 7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・潤子から「さみしい。」とメッセージが届いたときの真奈の思いを、多面的・多角的に考え、自分の考えを深めている。

【道徳的価値についての理解を自分とのかかわりで深めている様子】

- ・友達と信頼関係を築くことについて、自分との関わりで考えている。

自分事として考え、よりよい生き方について考えを深める道徳授業

- 1 **主題名** よりよい社会の実現      **内容項目** C 社会参画, 公共の精神
- 2 **ねらい** よりよい社会の実現に向けて、社会の一員であるという自覚を深め、社会とつながりを持ち積極的に社会と関わろうとする実践意欲を育てる。

**教材名** すべての人に読書の楽しさを

(出典：「彩の国の道徳『未来に生きる』埼玉県教育委員会」)

3 **主題設定の理由**

(1) ねらいや指導内容について

人間は一人では生きていけない。日々、互いに支え合って生きているが、中学生のこの時期は、周りの人や社会から支えられている自分に気付かずに過ごしていることも多いと考えられる。そのため、この時期に、人間としての生き方や社会の在り方について深く考え、よりよい民主的な社会を実現するために、中学生である今の自分が、どのように社会の一員として主体的に参画し、役割を果たすことができるかについて多面的・多角的に話し合うことが大切である。

「社会連帯の自覚」とは、社会生活において、一人一人が共に手を携え、協力し、誰もが安心して生活できる社会をつくっていかうことである。一人一人の個性を尊重し民主的な社会を築くためには、社会を構成する多くの人々と助け合い励まし合いながら社会連帯を深めることが求められる。そのような社会連帯の自覚を深めることは、社会の一員として、多くの人と協働しながら、主体的に社会に参画するために必要不可欠であると考えられる。

そこで、よりよい社会の実現に向けて、社会の一員であるという自覚を深め、社会とつながりを持ち積極的に社会に関わろうとする実践意欲を高めるために、社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことのよさを考えさせたい。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

自分が社会の一員であると実感している生徒は少ないと考える。社会の一員としての自覚をもてるように、第2学年の道徳科では、社会の様々な問題に目を向けて考える教材を活用し、自分事として考えられるようにした。

第3学年では、社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことのよさを考えられるように、他教科等ではこれまで次のように関連させてきた。社会科の公民分野では、選挙のしくみについて学んだ。あと数年で選挙権が与えられることから、選挙を通して社会参画することの大切さを考えた。また、生徒一人一人が社会の一員としての自覚をもつことができるように、様々なテーマに対して、自分の意見を持ち、それをもとに、ディベート方式で話し合うなど、社会参画について自分事として考える工夫を行ってきた。さらに、本校では、総合的な学習の時間の学校のテーマを「共生と向上」として、第1学年「地域の人々に学ぶ」、第2学年「学ぶことと将来の進路」、第3学年「21世紀に生きる・・・今、私にできること」をテーマに学んでいる。生徒は、地域と自分とのつながりから、自分の学びや進路を考え、さらに視点を広げ、日本や世界のために自分にできることを考えている。SDGsの目標を視点として活用しながら、総合的な学習の時間を中心に教科等横断的な学びの実現に向け取り組んでいる。また、各教科等では、それぞれの特性を生かしながら、現代的な課題に対して今の自分に



できることを常に考えさせる工夫を行っている。


このような指導により、少しずつ社会のことに興味・関心をもつ生徒が増えてきた。しかし、自ら社会と関わり行動しようとする意欲をもつ生徒は少ない。そこで本時では、よりよい社会の実現に向けて、社会の一員であるという自覚を深め、社会とつながりをもち積極的に社会に関わろうとする実践意欲を高めるために、社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことのよさを考えさせたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことのよさを考えさせるために、社会とのつながりを大切にした生き方をしている「佐藤聖一さん」に自我関与させる。さらに、佐藤さんの活動により社会とつながることができた男性側の思いも考えさせることで、社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことのよさを多面的・多角的に考えさせる。

以上の理由から、本主題を設定した。

#### 4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 アンケート結果から自分たちの実態を知る。</p> <p>授業支援アプリのアンケート機能を活用し、結果を大型テレビに映す。</p>	<p>&lt;事前アンケート&gt;</p> <p>問1：あなたが居場所だと感じている所はどこですか。 自分の部屋、家庭、学校、地域、インターネット空間、等</p> <p>問2：あなたは社会（地域社会）の一員だと実感したことはありますか。それはどのような時ですか。</p> <p>問3：社会とつながりをもつことは必要だと思いますか。その理由は何ですか。</p>	<p>・アンケート結果を活用することで日頃意識することが少ないと思われる社会とのつながりに意識を向け、話し合う必要感をもてるようにする。</p> <p>・社会との関わりを意識している生徒を意図的に指名し、身近な例を共有できるようにする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">【2】あなたは社会（地域社会）の一員だと実感したことはありますか？</p> <p style="text-align: center;">入力された意見を見て、教師は意図的指名をし、話題を学級全体に広げ、多様な意見を共有することができる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ICTの活用</div> </div>  <p style="text-align: center;"><b>問2の結果</b></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">問題意識をもつための工夫</p> <p>T：「地域社会の一員だと実感したことがありますか」という質問では、「わからない」という回答が多いですね。</p> <p>T：(略) 実感したことがあるかどうかは「わからない」けれど、次の「社会とつながりをもつことが必要だと思いますか」という質問では多くの人が「必要」と答えています。ここで、答えてくれた人の理由を見ると、「つながりがあったほうが楽しい」とありますが、どんなことがあったのですか？</p> <p>S：僕は、たまに公民館へ行きます。そこで小さい子と一緒に遊んだりすると、その子の親から感謝されて、嬉しい気持ちになります。</p> <p>T：公民館へ日頃から行くのですね。〇〇さんはそこでつながりをもつことの必要性を感じたり社会の一員と実感したりしたのですね。しかし、このアンケートからわかるように多くの人は必要だと思っはいるものの、社会の一員という実感がよくわからない。そもそも<u>なかなか「社会とのつながり」と言われてもピンとこないかもしれません。今日は、「社会とのつながり」に目を向けて、みんなで考えていきましょう。</u></p> </div>			

<p>展開</p>	<p>2 条件・状況を知る。</p> <p>3 教材の範読を聞く。</p> <p>4 佐藤さんの生き方をもとに考える。</p> <p>① 「せっかく働くな ら、社会で人のため になる仕事を探そ う」と思ったのはな ぜだろう。</p>	<p>・主人公：佐藤聖一さん</p> <p>・視覚障害者</p> <p>・埼玉県立久喜図書館で働いている。</p> <p>・自分にできることを探したいと思ったから。</p> <p>・周りの人や社会に支えられた分、自分も貢献したいから。</p> <p>・社会の一員として役に立つ仕事がしたいから。</p>	<p>・教材をタブレット端末に配信し、一人一人が自分のタブレット端末で読めるようにする。</p> <p>・「社会の一員として」をイメージしにくい生徒に対し、「学級の一員として」と置き換えるように伝えることで、積極的に社会と関わろうとする主人公の気持ちを捉えられるようにする。</p>
<p style="text-align: center;"><b>自分事として考える工夫</b></p> <p>(生徒の「仕事をしたい」という発言を受け)</p> <p><b>T</b>：まだ中学生なので、仕事をした経験はないけれど、<b>将来みんなが仕事を選ぶときに、どんなことを基準にしますか。</b></p> <p><b>S</b>：好きなことをしたいと思います。</p> <p><b>S</b>：お金も大切だと思います。</p> <p><b>T</b>：その思いも分かりますよね。佐藤さんは、「自分だからこそできる社会で人のためになる仕事」と考えていましたね。どうして、せっかく働くな ら、社会で人のためになる仕事を探そうと思ったのでしょうか？</p> <p><b>S</b>：同じように目が見えない人の役に立ちたいと思ったから。</p> <p><b>S</b>：自分も困った経験があるから、困っている人を助けたいから。</p> <p><b>T</b>：誰かの役に立ちたい、自分が困ったときに助けてもらったから逆に助けたい気持ちがあったかもしれませんが、<b>みんなも佐藤さんと同じような気持ちを経験したことはありますか。</b></p>			
<p>② 対面朗読サービスを受けに来た男性はどんな思いになったのだろう。</p>		<p>・自分の困難に感じていたことが楽にできて助かった。</p> <p>・自分も社会と関われるのだから嬉しくなった。</p> <p>・目が見えないことで、孤独に感じていたが、社会の一員であると実感した。</p>	<p>・様々な立場に立つことで、社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことのよさを多面的・多角的に考えられるようにする。</p> <p>・女の子とお母さんのエピソードにも触れ、佐藤さんの思いが周りの人につながっていく様子も話題にする。</p>
<p style="text-align: center;"><b>多面的・多角的に考える発問の工夫</b></p> <p><b>S</b>：男性は佐藤さんのサービスを受けて、人とつながることができて嬉しくなったと思います。</p> <p><b>S</b>：幸せを感じたと思います。</p> <p><b>T</b>：<b>社会とつながることは、なぜ幸せなのだろう。これまでの男性は違ったのかな？</b></p> <p><b>S</b>：目が見えなくて、一人で落ち込んでいたこともあったのではないかと思います。</p> <p><b>S</b>：家族しか関わる人がいなくて、寂しかったと思います。</p> <p><b>S</b>：たくさんの人とつながれることに幸せを感じたのだと思います。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>考えを広げるための 問い返しの発問</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>主人公だけでなく、男性の気持ちも考えたことで、社会には様々な思いをしている人がいることを理解し、中心的な発問でより多面的・多角的に考えられるようにした。</p> </div>			

<p>③ 「今日はなんてよい日なんだろう」と佐藤さんは満面の笑みを浮かべましたが、これからどう社会と関わっていきたいと思っているのだろうか。</p> <p><b>(中心的な発問)</b></p> <p>・佐藤さんはどんな社会にしたいのだろうか。(補助発問)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がしたことで、誰かが喜んでくれて嬉しかったので、人とのつながりを大切にしたい。</li> <li>・他にも関われない人がいるかもしれない。もっと頑張りたい。</li> <li>・これからも自分にできることを社会のためにしていきたい。</li> <li>・社会とつながりをもっていきたい。</li> <li>・積極的に行動していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤さんに自我関与することを通して、自分の考えを明確にし、社会の一員として社会とつながりを持ち、充実した生き方をしていることに気付けるようにする。</li> </ul> <p>☆積極的に社会と関わっていく主人公の生き方を通して、社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことのよさを多面的・多角的に考えている。</p> <p>(発言、ワークシートの記述)</p>
<p style="text-align: center;"><b>自分の考えを明確にし、仲間と考えを比べる工夫</b></p> <p>自分の考えを明確にするために、ワークシートに自分の考えを記入する時間を設けた。その後、3人～4人で話し合いをする時間を設けた。「仲間の考えで、自分とは違う考えだなと感じたことや、この考えよいなと感じたことは、仲間の考えの欄にメモしておきましょう。」と声をかけ、自分の考えと他者の考えを比較できるようにした。</p>		
<p>S: 今まで助けられていたことがあったから、次は同じようなことで困っている人のために、一人一人が生きやすい社会を作っていくと思います。</p> <p>S: 苦労をしながらも、より多くの人を少しでも幸せにしていくために働き続けていくと思います。</p> <p>S: みんなが社会と関われるようにするために、日常生活で困っていることを聞いて、社会と関わることの大切さを広げていくのではないかと思います。</p> <p>S: 「社会の一員となる大切さ」かな。 (発表後に「一員となる大切さ」とワークシートに記述。)</p> <p>S: (前の生徒の発言を受けて「大切さを広げる」とワークシートに記述。) 誰でもやりたいことができ、楽しく過ごすことができることを広めていきたいと考えていると思います。</p>	<p style="text-align: center;"><b>「規律ある態度」の育成</b></p> <p><b>【話を聞き、発表する】</b> グループの話し合いを通して、自分の考えと他者の考えを比較しながら聞くことや自分の考えを伝えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに社会とのつながりを感じたことのない生徒には、社会に支えられている身近な例を挙げ、自分と重ね合わせて考えられるようにする。</li> <li>・うまくいかないことがあっても、乗り越えてきた主人公の粘り強さにも触れ、主人公の原動力も考えられるようにする。</li> </ul>	
<p>④ 自分を振り返る 「佐藤さんのように、社会とつながりをもつ生き方をどう感じましたか。」</p>	<p style="text-align: center;"><b>自分を見つめる書く活動</b></p> <p>教材を離れ、自分をじっくりと見つめるために、書く活動を行った。振り返りの問いを明確にして、道徳的価値について、自分との関わりで考えることができるようにした。</p>	<p>☆主人公の生き方と自分の生き方を比べながら、社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことのよさを自分との関わりで考えている。</p> <p>(発言、ワークシートの記述)</p>

生徒が、仲間の意見を基にしながら、自分の言葉を使って、考えを広げている様子が見られた。



★：具体的な評価の視点

★自分のよさを見つめ、自分との関わりで具体的に記述している。

★社会とつながりをもつことは幸せだけでなく、「楽しみや支え合いになる」と多面的・多角的に考えている。

私個人と助けたり、アドバイスしたりするのかわり、自分自身で人助けをできるような存在になりたいです。自分も社会の一員として、自分のよさを活かして、社会に貢献したいです。

…社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うこと、よさを多面的・多角的に考えている記述。

社会とつながりをもつことは、自分自身で人助けをできるような存在になりたいです。自分も社会の一員として、自分のよさを活かして、社会に貢献したいです。

社会とつながれば、人と関わり、助け合える。自分も社会の一員として、自分のよさを活かして、社会に貢献したいです。

社会とつながり、互いに協力し合うこと、よさを多面的・多角的に考えている記述。

…社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うこと、よさを自分との関わりで考えている記述。

★社会とのつながりは、「助けること」だけでなく、「助けられることにもつながる」というように多面的・多角的に考えている。

★これまでの自分の現状を認識した上で、自分にできそうなことを考えている。

終末

5 佐藤さんのお話の動画を視聴する。

・自分から進んで社会と関わっていけるとよいな。社会の一員としての自覚をもって生活していきたい。

・教材文にある二次元コードを活用して動画を視聴する。  
・教師も共に人間としての生き方について考え、生徒の考えから気付いたことを伝える。  
・社会とつながりをもつこと、よさを感じられるように話をする。

佐藤さんは、「困ったときに助けてくれる人、アドバイスをくれる人がいた」と話していました。それは、きっと自分からいろいろな人と関わったり、社会とのつながりをもっていたりしたからこそだと、みんなと一緒に考えてみて私は感じました。みんなも立派な社会の一員です。社会に助けられることもあれば、きっと社会を助ける存在でもあると思います。中学生だからこそできることもありそうですね。



## 5 板書



## 6 他の教育活動との関連

社会科	選挙のしくみについて学び、社会参画の意義について一人一人が自分の考えをもてるようにする。
特別活動	生徒会活動の一環として、ボランティア活動に参加し、社会の一員として、貢献できることを実感できるようにする。
総合的な学習の時間	SDG s で挙げられている目標をもとに、興味・関心の高いものを選び、それに対して様々な視点から、自分にできることを考える。
家庭との連携	道徳科の授業の様子を学級通信で共有し、家庭でも「社会とのつながり」「人とのつながり」を話題にできるようにする。

## 7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことのよさを多面的・多角的に考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことのよさを自分との関わりで考えている。



## よりよい授業づくりのために



埼玉県マスコット「コバトン」

よりよい授業づくりで大切なのは、「**指導の意図を明確にすること**」です。指導の意図を明確にするために、次の3つのステップで授業者としての考えを明確にし、授業に臨みましょう。

### STEP1

### 道徳的価値

本時で扱う内容項目について、**特に大切にしたいこと**を、「[学習指導要領解説 特別の教科 道徳編](#)」を基に明確にしましょう。

### STEP 2

### 児童生徒の実態

これまでの道徳科や各教科等の指導の中で、**道徳的価値に根差した問題**について子供たちの**よさと課題**を把握しましょう。その上で、**考えさせたいこと**を明確にしましょう。

### STEP 3

### 教材の吟味

**児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項**が教材の中にどのように含まれているかを検討しましょう。

**考えさせたいことに基づき**、本時で教材をどのように活用するのか構想しましょう。

例えば・・・

内容項目 B「友情、信頼」 教材名「離れていても」  
出典：彩の国の道徳「未来に生きる」（小学校 高学年）



互いに理解し、信頼し合うことで、よりよい友達関係を築いていこうとする意欲を高めたい。

各教科等の学習や日常生活で児童生徒の交友関係を観察したり、指導したりしましょう。

実態	よさ	相手の気持ちだけではなく、相手の立場も考え、友達関係を築いている様子が見られる。
	課題	SNSでつながる友達関係について不安や悩みを抱えている児童生徒もいる。

**【考えさせたいこと】**  
友情を深めるために大切なことは何か

【教材のあらすじ】父の都合で転校することになったぼく。親友である仁にそのことを打ち明ける。ぼくは、転校してもタブレットを使って交流すれば今までと変わらず親友でいられると考えたが、仁に「離れていたら友達を続けるのは難しい」と言われた。その日の夕方、オンライン会議をしている父にオンライン上での人間関係について尋ねる。父の話から離れていても思いは伝わることに気付く。



親友と近くにいるか、遠くにいるかで友情を深めることに違いがあるかを考えさせたい。

**【中心的な発問】** 遠く離れた場所で、笑顔の仁を思い浮かべ、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。

※ それぞれの実践例の始めのページに、この3つの授業者の捉えが明文化されています。



## 発問づくりのポイント



埼玉県マスコット「コバトン」

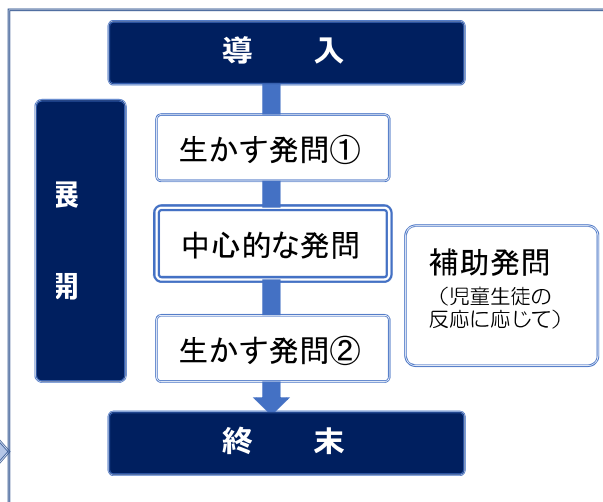
発問は、**考える必然性や切実感のある発問**、**自由な思考を促す発問**を心がけることが大切です。



埼玉県マスコット「コバトン」

発問を考える場合には、  
 ①ねらいに深く関わる  
**「中心的な発問」**を考え、  
 ②その発問を生かすための  
 発問をいくつか考え、  
 ③**全体を一体的にとらえる  
 ように構成を工夫**します。

このようなイメージ



例えば・・・

内容項目 B「友情、信頼」 教材名「離れていても」  
 出典：彩の国の道徳「未来に生きる」（小学校 高学年）

		発問の意図等
<b>導入</b>	あなたにとって大切な友達とは、どのような友達ですか。	本時で考えていく友情についての <b>問題意識</b> をもたせる。
<b>展開</b>	<b>【生かす発問】</b> 仁の後ろ姿を見ている時、ぼくは、どんな気持ちになったでしょうか。	本時のねらいと対立する仁の「友情は近くにいないと成立しない」という捉えを明確にする。
	<b>【生かす発問】</b> 父の言葉を聞いたぼくは、心の中でどんなことを思ったでしょうか。	父の言葉から「相手を信頼し、大切にすることがあれば友情は壊れない」と確信するぼくの様子を捉えさせる。
	<b>【中心的な発問】</b> 遠く離れた場所で、笑顔の仁を思い浮かべ、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。	離れていても友情を大切にしている二人とそれぞれが近くにいる友達ともよい関係を築いていることを考えさせる。
	<b>【補助発問】</b> 仁の友達に対する考えは、ぼくとの電話やオンライン作戦会議を通してどのように変わったでしょうか。	児童とのやり取りの中で、仁の <b>気持ちの変化</b> を問うことでねらいに迫っていく。
<b>【生かす発問】</b> 友情を深めていくために大切なことはどのようなことですか。	友情を深めるためには「 <u>物理的な距離ではなく、互いに信頼し合うことが大切</u> 」ということについて、これまでの自分を振り返り考えさせる。	
<b>終末</b>	教師の説話を聞く。	友情を深めるためには <b>相手を思う心</b> が何よりも <b>大事</b> であることを教師の経験から話す。

※ 実践事例から授業者がどのような意図をもって発問しているか考えてみましょう。

## 児童生徒の学びを評価する



埼玉県マスコット「コバトン」

次の2つの視点から、**児童生徒のよさを認め、自分自身の授業改善**につなげていきましょう。

### ★ 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか。

- 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点から捉えようとしている。
- 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- 道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

例) 内容項目 B「友情、信頼」 教材名「離れていても」出典:彩の国の道徳「未来に生きる」(小学校 高学年)

評価の視点	★友情を深めるために大切なことについて、主人公「ぼく」に自我関与し、多面的・多角的に考えている。
見取りの方法	児童の発言の様子・道徳ノート
指導上の留意点	離れていても近くにいても友情を深める上で共通して大切なことについて児童の多様な考えを引き出していく。

### ★ 道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めているか。

- 教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりにイメージし理解しようとしている。
- 現在の自分自身をふり返り、自らの行動や考えを見直そうとしている。
- 自己の取り得る行動を教師や児童生徒と議論する中で、道徳的価値の理解を深めている。
- 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

例) 内容項目 B「友情、信頼」 教材名「離れていても」出典:彩の国の道徳「未来に生きる」(小学校 高学年)

評価の視点	★これまでの自分自身を振り返り、友情を深めるためには、信頼し合うことが大切だということについて考えている。
見取りの方法	児童の振り返りの記述
指導上の留意点	導入で「あなたにとって大切な友達とは」の問いを振り返り、本時の話し合いを通して新たに気付けたことについて記述させる。

教師

様々な視点から考えさせる発問が効果的だった。

自分事として捉えさせるためには、どうしたらよかっただろうか。

**授業力の向上**

児童生徒

なぜ、〇〇が大切なのか考えが深まった。

なるほど。そんな考え方もあるんだ。

**学習したことの意義や価値を実感**

指導と評価の一体化

※ 実践事例から評価と指導在り方の具体例を見てみましょう。

## 教師の心構え



児童生徒と共に考え、悩み、感動を共有し、学び合うという姿勢を持ちましょう。

道徳科の授業は、児童生徒だけが考えるのではなく、**教師も共に考える時間**でもあります。児童生徒に教え込もうとするのではなく、教師自らが児童生徒と共に考え、悩み、感動を共有しながら、学んでいくという姿勢で授業に臨むことが大切です。

学習指導要領第3章の「第2 内容」は、教師と児童（生徒）が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共有の課題である。

第3章 道徳科の内容 第1節 内容の基本的性格 1 内容のとらえ方



児童生徒で聞き合い、議論することができる授業を目指しましょう。

児童生徒の考えを聞くだけでなく、話合いの能力を高め、**児童生徒が聞き合い、議論することができるように工夫**していくことが大切です。そのためにはまず、児童生徒が**主体的に発言できる支援**が必要です。

- 教師が話しすぎないようにしましょう。



こうならないためには、**児童生徒の発言があるまで、じっくり「待つ」**ことです。

「待つ」時間が、児童生徒が自分の考えを深める時間になります。

- 一人一人の感じ方や考え方を**広げたり、深めたり**しましょう。

### 《教師の問い返し例》

根拠を問う	・なぜ、そう考えましたか？
具体例・反例	・具体的にいうとどうのことですか？ ・それがあてはまらないことってあると思いますか？
比較する	・〇〇と▲▲の考えは、どんな違いがあると思いますか？ ・どちらの気持ちが強いと思いますか？
視点を変える	・逆の立場で考えるとどうなるでしょうか？ ・本当にこれでいいと思いますか？ ・もし、〇〇だったら、どうしますか？
他律から自律へ	・人から褒められるから、そうするのですか？
全体の話題に	・みんなは、Aさんの考えをどう思いますか？

※ 実践事例の教師と児童生徒のやりとりに注目してみましょう。

## 令和5年度「彩の国の道徳『未来に生きる』」実践事例作成委員会

### 1 作成委員

- ◎ 加須市立加須西中学校 校長 藤間 隆子
- ・ 川口市立根岸小学校 教諭 越後 茂登子
- ・ ふじみ野市立大井西中学校 教諭 川内 紗貴
- ・ 寄居町立寄居小学校 教諭 黒澤 拓也
- ・ 越谷市立東中学校 教諭 坂田 陽香
- ・ 南部教育事務所 指導主事 坂井 貴文
- ・ 西部教育事務所 指導主事 茂木 幸子
- ・ 北部教育事務所 指導主事 亀田 央葉
- ・ 東部教育事務所 指導主事 秋山 香奈子
- ・ 県立総合教育センター指導主事兼所員 小久保 理恵

### 2 事務局

- ・ 市町村支援部義務教育指導課長 高田 淳子
- ・ 市町村支援部義務教育指導課教育指導幹 阿部 弘之
- ・ 市町村支援部義務教育指導課主幹兼主任指導主事 小峰 元
- ・ 市町村支援部義務教育指導課指導主事 新居 良介
- ・ 市町村支援部義務教育指導課指導主事 芳賀 一行

### 3 「道徳科をもっと楽しく行うために」参考資料

- ・ 小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月 文部科学省
- ・ 彩の国の道徳「未来に生きる」指導資料 離れていても【小学校高学年】  
令和4年3月 埼玉県教育委員会
- ・ 「匠の技」～ここから始めよう！道徳授業（中学校）～  
平成27年3月 埼玉県教育委員会
- ・ はじめよう！！道徳科 平成30年3月 群馬県教育委員会
- ・ 道徳サポートブック 令和2年3月 宮城県総合教育センター
- ・ 価値観を広げる道徳授業づくり 教材の価値分析で発問力を高める  
著者 高宮 正貴 北大路書房 令和3年2月

「彩の国の道徳『未来に生きる』」実践事例 令和6年3月発行

発行 埼玉県教育委員会

編集 埼玉県教育委員会市町村支援部義務教育指導課

〒330-9301

埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1

電話 048-830-6748

E-mail a6750-03@pref.saitama.lg.jp



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」